

土岐川グリーンベルト通信 第1号

「笠原の森」での活動報告 (これまでの経緯と平成 12~13 年の活動報告)

荒廃した山に緑を戻しました。

古くから美濃焼の里、陶都として知られる笠原町一帯は、陶土の採掘や燃料等を得るため山林を伐採し、その結果「禿げ山」になってしまいました。そのため、少しの雨でも土砂が流れ出し、土砂災害が頻発していました。

明治に入り、政府は土砂災害防止の進展のため様々な砂防工法が検討され、実施されました。笠原町北部に位置する「笠原の森」もその一つであり、緑が回復し、土砂の流出が少なくなりました。



「笠原の森」位置図

でもまだ森は手入れを必要としています。

しかしながら、「笠原の森」は山腹工が施工された後、放置された状態であったため、主な構成種であるアカマツがマツクイムシの被害にあい、枯れた木が目立ちます。また、木が密生した暗い所もあり、地表を覆う植生が育ちにくくなっています。このような状態では、豪雨時に枯れ木が流れ出たり、木の根が洗われ崩壊したりする危険性があります。

防災機能の高い豊かな森は、様々な樹種により構成され、落葉や地表を覆う植生が繁茂した森でなくてはなりません。

「笠原の森」をこのような森とするためには、枯れた木の伐採や、間伐等の手入れを行う必要があります。



アカマツの枯損木により荒れた林

笠原の森で中学生が森づくりをはじめました。

「笠原の森」は、住宅地や工場がすぐ側まで迫っており、土砂災害から人命・財産を守る重要な樹林です。

「笠原の森」に隣接している笠原中学校では、その大部分が町有地ということもあり、笠原町や岐阜大学等と連携し、平成 12 年より「総合的な学習の時間」を用いて森づくりを行っています。

笠原中学校は、「2020 年笠原の森」をテーマとし、生徒達が親になった頃、子どもの手をひいて歩けるような憩いの森づくりを目指して、担当の先生を始め、教頭、校長先生が先頭にたち、意欲的にこの活動に取り組んでいます。



森づくり活動のようす

樹林内の歩道整備と環境整備を行いました。

初年度、そして平成 13 年度は荒れた林内を整備・活用するため、まず森に入り、歩道の整備を進めました。やぶで通りにくかった歩道も通りやすくなり、今では地域の方の散歩コースとして利用されるようになっています。中学生も、木を切る活動を楽しんでいたようでした。



「笠原の森」



森づくり活動のようす

森づくりを通しての生徒たちの気づき

「総合的な学習の時間」では、子どもたちが自然体験、生活体験を通して学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度の育成を図ることを目的としています。

笠原中学校には、初動期の活動では、実体験を通して得られる生徒達の「気づき」を大切にしたいという思いがありました。そこで実際にのこぎりをもって活動をはじめたところ、多くの「気づき」があったようです。

生徒達の気づき

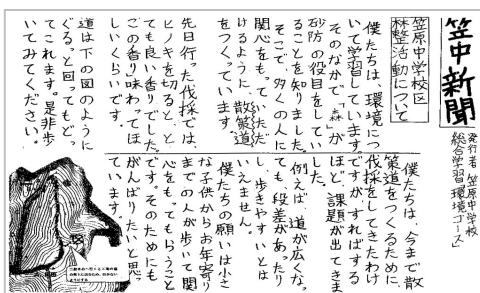
- ・今回整備した道をたくさんの人に使ってもらいたい。
- ・最初はやぶの状態の木を切るのが嫌だったが、切ってみるとおもしろかった。
- ・においがする木など、木の種類がいろいろあることがわかった。
- ・年輪で木の年齢や、方角がわかることを知った。

など

活動は地域へ発信されています。

歩道の整備を行ううちに、生徒は「地域の人に森に入ってもらいたい」という願いを強くもつようになり、平成 13 年、生徒から地域の方々へ新聞を作成しました。これを見て、地域の方より返事がきたようです。

また、12年の活動を知った地域のボランティア団体の方々より参加要請があり、13年の活動より一緒に活動をおこなっていただいております。



地域の人へ宛てた新聞



時には、地域の方が先生となって生徒に指導する場面もありました。

作成者・お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局
多治見工事事務所

砂防調査課 杉江・野

〒507-0804

岐阜県多治見市坂上町 6-34

TEL : (0572) 25-8024

ホームページアドレス :

<http://cbr.mlit.go.jp/tajimi/>